

親しく正しく和やかに

当山先々代三吉日照上人の提唱による  
当山スローガンです  
揮毫=大本山本興寺御開士大平日普上人

# 寺でらす 楽寿

No.17

平成 26 年 6 月 1 日 発行



季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）  
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。  
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに  
広くお読みいただければ幸いです。

本覺山 妙壽寺（法華宗（本門流））  
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1  
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427  
ホームページ http://myojyujori.jp

## 無縁社会と寺縁 その14

先般、法華宗教学研究発表大会特別講師として、講演頂いた河内将芳先生上様の『日蓮宗と戦国京都』を拝読致しました。東国仏教として成立した日蓮法華宗が、他宗門に遅れて京都（帝都）に布教、皇室の帰依を受けながらもその教えは、町衆といわれる商工業者に広まりました。一時は、「題目の巷」と言われる程の隆盛であったといえます。本能寺の変で織田信長・信忠親子が攻め滅ぼされた場所が京都本能寺（法華宗四大本山のひとつ）、妙覺寺（日蓮宗・信忠は二条城に移り敗死）であったこともその繁栄ぶりと大きく関わっています。

そこで忘れてならないことは、今では禅宗がその主たる拠り所とされている茶道文化であり、文化と宗教の関わり、現在の私共が今生きる現実社会の中で、日々の生活の中に何を求め、何を次代に残していくかということが、とても大切なことであるという大きな示唆を思っています。寺院が単なる儀式的場であることなく、人々の心の拠り所としてコミュニティの役割を果たし、同時に新しい文化の発信が出来ることを目指していきたいと考えています。

鴉 鶴



動物廟前にて春の陽射しに輝くバラ。周りを明るく彩る愛らしさに参詣者を和ませていました。

## 興隆学林校舎新築 ご寄付のお願い

私どもの法華宗の僧侶養成機関である興隆学林の建物が築48年を経て耐震診断を行い、その結果、全面改修新築となりました。かねて学林新校舎建築ご寄付をご依頼し、すでにご奉納いただいている方々もおられ、有難くお礼申し上げます。

なお、現在も広く妙壽寺を通じ、ご寄付を募っております。将来の法華宗を担う若き僧侶の育成のため、ご浄財寄付をお願いいたします。ご浄財は一口1万円で、一口以上、または一口以下でもお受けさせていただきます。寄付金は当山受付にご持参、または郵送にてお願い申し上げます。



©学校法人法華学園興隆学林専門学校

## 寿の寺日記

### 東日本大震災第三周年忌法要 東京大空襲第七十回忌追悼法要巡拝

3月10日、法華宗主催の東日本大震災第三周年忌法要が水戸市感応寺において、法華宗宗務総長二瓶海照台下御導師にて厳かに営まれました。同日、二瓶内局教学部長である当住上人御導師にて法華宗宗務院（人形町）御宝前において東京大空襲第七十回忌追悼法要が営まれ、主催者である東京教区青年会「吼える」会員、法華宗青年伝道隊有志により法要が行われました（写真左）。法要後、唱題行脚にて両国・東京慰霊堂に集結、読経回向し、再び宗務院ご宝前に戻り、法味言上の供養が行われました。

翌11日、当住上人、木下信隆上人（東京教区宗務所長・永隆寺住職）、大坪顕孝師、中島正幸（セシモ中正）は東京駅より一路新幹線にて福島へ、午後2時、立正院（住職矢吹泰英上人）における東北教区主催（宗務所長土田隆英上人御導師）の東日本大震災第三周年忌法要が営まれ、約30名の方々が参拝参列されました（同右）。



### 西澤つづじ園当主 西澤義光氏 逝去

4月16日、当山世話人である西澤つづじ園当主・西澤義光氏逝去（厳光院智園日義居士、72歳）。同氏は5年ほど前から鍋島客殿前庭の作庭、東祥苑竣工後の造園をご奉仕をいただきました。烏山地域と菩提寺妙壽寺に多くの貢献をされた故人のご冥福を心よりお祈り致します。

●5月15日 群馬四万温泉 薬王寺落慶式  
落慶式を迎える群馬四万温泉薬王寺（住職中道善信上人）に法要前日14日、当住上人夫妻は参拝され、お祝いを申し上げます。

●5月20日、22日 法華宗宗務院  
法華宗の年間活動、事業計画を審議する宗務院が開催され、当住上人は「瓶内局教学部長（責任役員）」として参加されました。



また法要後、当住上人はじめ有志は、銀座・鳩居堂画廊で開催されている「第31回日本書院選抜展」へ赴き、櫻井律子氏の作品を鑑賞されました。

●3月14日 法華宗教学研究発表大会  
東京国際フォーラムにおいて恒例の第27回法華宗教学研究発表大会が開催され、本年は宗門第四祖大覚大僧正第六百五十遠忌の記念講演、また、各発表者の熱心な研究発表が行われました。

●3月21日 春季彼岸法要  
日増しに暖かさが感じられる彼岸会的时候、21日中には400名を超えるご参拝をいただき、法要後には歴代墓所、正隆廟、動物廟の各墓所にも参拝されました。

●3月6日・4月8日 興隆学林卒業式・入学式  
法華宗の次代を担う僧侶養成機関である興隆学林専門学校の卒業式および入学式がそれぞれ行われ、宗務総代理として当住上人（教学部長）が祝辞を述べられました。

●4月28日 大僧正日照上人第六十回忌法要  
大阪市妙道寺住職高橋顕昭上人（日照上人徒弟）御導師にて、当山先々代日照上人・同内室慈恵院法尼第六十回忌、先代日惠尼上人祥月忌

●3月31日 徳島組寺妙典寺輪番法要  
花曇りのなか、昨年12月1日落慶に引き続き、組寺輪番法要が妙典寺新本堂において、四国教区宗務所長岡村祥光上人（本覚寺）御導師にて盛大に営まれました。

●4月5日 烏山花まつり開催  
毎年恒例の烏山仏教会主催第84回花まつり法要が稚児18名の参加を得て、名残りの桜のなか練り供養・法要が行われました。

●4月11日 法華宗千鳥ヶ淵法要  
法華宗主催の千鳥ヶ淵戦没者追悼法要が宗務総長二瓶海照台下御導師にて当住上人（教学部長）も式衆として厳かに執り行われました。

●4月25日 富山誕生寺門祖会  
午前11時より富山県射水市の誕生寺において、日隆聖人門祖会が法華宗管長平田日範親下（大本山鷲山寺貫首）御導師にて奉修されました。

法要が寺内職員参列して当山御宝前にて営まれました。

●4月29日 新宿浄風寺開基上人第五十回忌・門祖日隆聖人第五百五十遠忌法要  
新宿西口・新宿グリーンタワービルに隣接する浄風寺（住職別所日山上人）において、宮内日大上人（直路院日大聖人）第五十回忌、引き続き門祖日隆聖人第五百五十遠忌が奉修され、法要後、ハイアットリージェンシーホテルにて祝賀会が盛大に催されました。

●4月29日 福島立正院鬼子母神大祭  
福島市立正院において恒例の稚児行列に引き続き、鬼子母神大祭が奉修され、当住上人代理久美夫人が参拝されました。

●5月1日 猿江大祭・正隆会ウォーク  
当山旧地猿江（江東区）にある猿江稲荷社大祭法要が当山檀信徒と氏子の方々の参詣にて奉修されました（写真）。その後、正隆会ウォークが行われ、両国「ちゃんこ江戸沢」にて昼食、東あられで買い物、東京慰霊堂では東京空襲犠牲者を追悼し、相撲博物館を見学しました。

### KUGENIYA & SAN FRANCISCO 鶴沼・桑港から

●清明庵▶4月15日 昭和40年4月23日遷化の藤波妙龍法尼（正行院教導妙龍法尼）第五十回忌が24名にて奉修され、法要後、藤沢鎌倉山レストランにて供養席が設けられ、在りし日の法尼をお慰びしました。

●桑港▶4月6日 桑港日蓮教会において、春彼岸・花まつり法要が約30名超のメンバーと共に奉修されました。日本から、妙壽寺婦人会の稲生恵子様、当住久美夫人も参列され、前日に催されたお茶会に参加、現地の方々との交流を深めました。

●4月12日 来日中の清野ロン・ペギーご夫妻、娘ミッシェルさんが妙壽寺来山。夫人の母堂畑田雪子さんの第一回忌法要が営まれ、鍋島客殿2階にて供養が行われました。

### 客殿訪問記

3月8日 高井戸地域区民センター12名見学  
4月10日 NHK番組「美の壺 初夏を遊ぶ、綿木綿の着物」(タレント渡辺満里奈さん)撮影  
5月13日 多岐川舞子(演歌歌手)CDジャケット撮影  
5月14日 烏山「なかよし会」20名見学

●猿江別院工事進捗報告 かねてより懸案であります妙壽寺猿江別院建設は、5月に確認申請提出、6月着工（地盤改良）の運びとなりました。来春竣工に向けて工事を進めて参る予定であります。

### 妙壽寺 2014 夏秋スケジュール

7月16日 孟蘭盆会施餓鬼法要  
午後1時：法話 午後2時：法要  
棚経（たなごよう）  
7月上旬から15日まで、各お檀家へ担当僧侶がお盆棚経に伺います。

9月23日 秋の彼岸法要  
午前11時：中日合同法要 初座  
正午12時：歴代墓所参拝・正隆廟法要・動物廟法要  
午後2時：中日合同法要 第二座

11月3日 当山御会式法要 午後2時

### 正隆会

【SHORYU-kai】  
午後2時開催

6月14日(土) 勉強会「心が温かくなる日蓮の言葉」拝読18  
7月12日(土) 興隆学林平島盛龍教授特別講義  
8月 休講  
9月13日(土) 勉強会「心が温かくなる日蓮の言葉」拝読19  
10月11日(土) 課外活動ウォーク（場所未定）  
11月8日(土) 写経会  
12月13日(土) 三千返唱題会 釈尊成道会

### 月例講 ご案内

当山では、毎月第2土曜午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟前法要を奉修しております。

# 本堂落慶30周年記念インタビュー

## 泊 懋氏

(元東映アニメーション(株)代表取締役会長) 後編

聞き手 当住上人 三吉廣明(平成26年1月31日 代々木能舞台)

### 時代は映画からテレビドラマへ

**三吉** 泊さんは35歳から60代の初めまで、東映のテレビ部門にお移りになられて、まあ、本当に視聴者がどれだけ楽しんでくれたかというところが多い作品を生み出され、製作されました。「清水次郎長」「新撰組」「仮面ライダー」「暴れん坊将軍」「遠山の金さん」「特捜最前線」「影の軍団」「はぐれ刑事」「三匹を斬る」「ホテル」等々。もう、観ない作品はないですね。(笑) 初期のころの「清水次郎長」はどなたが主役ですか。

**泊** 竹脇無我でした。フジテレビ土曜8時でした。向田邦子さんがシナリオを書いてくれて、大政が木下実、森の石松とおお輝彦、三三郎が近藤正臣お嬢に梓英子で大成功の番組でした。

**三吉** 私、10年ぐらい前に、家内の親友のPTAお仲間が中村橋之助・三田寛子(ご夫妻、紹介を受けて、家内と東映太秦に見学に行ったんです。その時に2階の待合部屋に行きました。

**泊** 俳優会館ですか。

**三吉** ええ、右太衛門さん、千恵蔵さんの専用の部屋があり、順番が決まっていますね。

**泊** よくご存知ですね。撮影所の一画に三階建俳優会館がありまして、一階は演技課の事務所や衣装部屋とかズラをつけたりする結髪メイクの部屋があり、二階の右手に千恵蔵御大、一番左に右太衛門御大の部屋がありました。錦之助さんや橋蔵さんはどんなに人気が出てきても間の部屋でした。若山富三郎さんはまだ三階だったですね。右太衛門さんが京都を離れた後には鶴田浩二さんが入っていました。高倉健さんの部屋は真ん中であって健さんが東映を離れたあとずっと空室のままにありました。撮影所にはこうした人情が連綿と続いているんです。

**三吉** 制作サイドには、何とか組みたいのがあって、個性的ですよ。斬られ役の方たちのポ

**泊** リシーがあるんですか。

**三吉** 剣会ですね。最盛期には5本も6本も同時に撮影していましたから立ち回りの掛け持ちで、あの人が一番忙しかった。

**三吉** かと思うと、川谷拓三さんのように、そういう部屋から上がってくる方もいますね。

**泊** 川谷さんはあの中から見だされて一枚タイトルルの役者になりました。

**三吉** 時代劇で一つお伺いしたいのは、時代考証というのをごいいますか。

**泊** 時代考証は、私は稲垣史生さん(日本の時代考証家)によく相談しました。吉宗はどうすれば城を抜け出せるか。それは不浄門から出るんですよ、とか。家光で道中記を作りたんだけど大丈夫か。あ、それならこの時期に京都へ行ったことがあるから大丈夫です、とかですか。面白くするために何処まで嘘をついていいか(笑) 相談しました。それに京都にはすばらしい職人さんがいましたから、衣裳、小道具、セットすべて安心していました。

**三吉** やはり何を指すかということが大切で、最後には良いところに辿りつくのだと思います。そこでの時代考証とは、と思えますか。

**泊** そうですね。それは市川右衛門さんに、いろいろなりアルに何とかしろと…

**三吉** それは無理ですよ。(笑)

**泊** それですと受けてきていますから。例えは、私の母は市川右衛門が大好きで、私は個人的に「忠臣蔵」が好きで、随分いろいろな「忠臣蔵」を見ているんですが、「忠臣蔵」のどれが好きかという、片岡千恵蔵が大好きで、大川橋蔵が浅野内匠頭という、東映時代劇の全盛期の豪華絢爛。

**三吉** 市川右衛門の立花左近。

**泊** 要するに、吉良上野介の月形龍之介が、後に水戸黄門になるけれど、吉良上野介というところがうんとよくて、あの本当に憎々しい感じ。三吉 最高の上野介でした。

**三吉** そして、大川橋蔵がいじめられる感じがとてもよくって、最後に切腹する時に、近習が渡り廊下のところで最後に会うじゃないですか。涙ですね。

上層部からクレームがついたことなんです。「將軍が城を出て、市中で立ち回りをやるのは乱暴ではないか」と言われた時に、「いや、28年の治世の間に26回、つまり、年に1回、將軍様がお忍びで出て、それはあり得ることです」とご説得をされたというのが、すばらしいなと思いました。

**泊** 苦し紛れでしたが、ここを突破しないと成立しませんので。テレビ朝日の局長も粋な人で「あ、そうかそうか、28年のうちに26回だけ出たんだな」と、笑って判子を押してくれて。そのお陰で27年、831回も続きました。初演は松平健24歳でした。

**三吉** 24歳ですか。でも、よく発掘されましたね。勝新さんのところにおられたということですが。

**泊** 事情があつて前の番組が打ち切りになったんですから急ぎよ温存していた吉宗を用意したんですが、主役級の役者は出払って残ってない。その時、勝新太郎さんの弟子に松平健というのがいるというのを小耳に挟んで面接したのですが、皆が感じが暗く良くないと言った。見ると松平健は黒シャツに黒のスボンの黒装束で緊張して立っている。そこで2回目の面接の時は事務所に白い服を着てくるように頼みましてね。(笑) 松平健は白装束でこやかに現れたんですね。笑顔の素敵な若者でした。新人主役決定の裏話です。

**三吉** 松平健が、貫禄が付き始めてと題名を変えようという話が出ましたね。変えなくて良かった。

**三吉** でも、格好いいですよ。やっぱり、海に白い馬で走ってくるというのは、最初からそうだったのですか。

**泊** タイトルバックに白馬が登場するのは5年後で初めは茶色の鹿毛でした。新人で勝負したから脇を固めようと、北島三郎、横内正、天知茂と言った方々が出て頂きました。北島さんが鍵だと思ったから新宿コマの楽屋に訪ねたんですが、スケジュールは2年先までビッシリなんです。ところが北島さんは「兄弟仁義」で京都に思い入れがあるもんで、そこからやりくりして出て下さいました。

**三吉** 観ました、その「兄弟仁義」の映画も。

**泊** これは後日談ですが、北島さんが皇太子(現在の天皇陛下)と美智子妃殿下の前で歌うことになって、ここからは北島さんの話ですが、宮内庁からは歌うだけで直接話しかけてはいけないと厳命されていたけど、北島さんは「殿下(リクエス)は」と声かけちゃうんです。すると殿下は「あ、ぐつと」というのを、とおっしゃった。「ぐつと」というのは「暴れん坊將軍」で北島さんが歌う主題歌です。そして歌い終わったら美智子様が「番組をいつまでもお続けください」っておっしゃられたそうです。宮中では毎週土曜の8時にはテレビの前にお座りになって「暴れん坊將軍」を観ておられるんだと、この話を聞いた時は北島さんと万歳しましたね。この番組は天皇家のご了承がなければ止められませんか(笑)、テレビ朝日に新しい社長が就任するたびにこの話をしたものです。

### ストーリーにみる「勸善懲惡」とは

**三吉** ところで私は、「暴れん坊將軍」もそうですし、泊さんの関わられた時代劇が、一つの流れというの、勸善懲惡というか、最後は、悪い人は悪い、ということになるわけじゃないですか。

**泊** 泣き笑い握るは東映映画の骨法ですが、勸善懲惡、ハッピーエンドは娯楽映画のハートの部分



京都撮影所でロケ中の「暴れん坊將軍」の松平健さん(左)を陣中見舞の泊氏



代表取締役会長を務めていたころの泊氏。東映アニメーションギャラリーで(平成21年)

です。悪が勝ったり主人公がやられたりして終わったら何とも後味が悪いものになる、悪を倒して爽快な気分が映画館を出て行ってもらわなければいけない。

そこで悪の設定も大事になるんですね。全盛期の東映時代劇には憎らしい悪役が山ほどいました。阿部九州男を斬つても山形勘が出てくる、斬るとまた向こうには進藤英太郎が出てくる、これで終わりと思うとまだ月形龍之介が出てくるという塩梅で、強い悪を設定するほどスカッとする。

**三吉** 勸善懲惡。それが当時の時代にも合っていたし、時代をつくってきた。それは日本人の精神文化の中で、すごく大切なことじゃないかと。昔はよく我々の先輩方が、いや、昔は、それこそ50年、100年前というのは地獄絵といふのがありました。その地獄絵は子供の時から、家であつて、悪いことをすると地獄へ落ちますよ、目には見えないものに対しても、何か悪いことをしたらいけないんだ、というのが背景にあるわけじゃないですか。そういうのを、私は大衆文化の中で、時代劇といふのは、体現している。もう結果はわかっているんだけど、そのプロセスとか、その中でそういう勸善懲惡ということがきちんとメッセージとして残っているというの、私は日本人の心のパツクポイントとしてすごく大切じゃないかと。

今、外国人の観光客が、年間1,000万人が来日しているようなんです。日本人が何すればいいかといったら、「みんな正直で、いい人だ」と言うわけですね。だって、物をとらないし、お金を落としても戻ってくる国なんてないですよ、世界の中で。それはやはり、江戸時代からのそういう相互扶助の精神であつたり、昔はやっぱり身分社会というの、身分社会ではあつても、そういう中でみんな一生懸命頑張ってきたということじゃないかと思えます。製作にあつて時代劇のポリシーのようなものはいかがでしょうか。

**泊** ポリシーというほどではないけど、時代劇で受けるのは、強い人が出てきて助けてくれた、それが実は身分の高い偉い人だった、というパターンです。日本人は依頼心が強い国民性と思つて作つていました。それと時代劇は年寄りが見ていけるからと言って、老人を助ける話を受けない。矢張り若い娘を助けないとダメです。(笑)

**三吉** ああ、お上依存のようですね。

映画の「最後の忠臣蔵」(平成22年)は、とてもよかったですね。最後のほうで、涙が出そうになりました。でも、あれもやっぱり脇もよかったです。最初によつとしか出なかつたけれども、仁左衛門(片岡)さんが大石内蔵助で、内蔵助に

代劇のお話ができるのは、母堂を思い出します。私は住職としてお寺を預かって33年目で、妙壽寺の歴史は390年、その中の33年という事です。江戸の初期、寛永8年(1631)の草創ですから、まさに時代劇の人たちが活躍していた時代に、私どもの歴代の住職も、当時の檀家がまた支えていたという、妙壽寺があつて、それで現在のこの寺につながっているという事を思うわけなんです。ですから、「あなたたちは、今ここに突然いるんじゃないか、あなたのお父さん、お母さんで2人ですね、そのまた祖父父母で4人です。それにまた8人のひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんがあります。2と4を足すと6で、6と8を足すと14ですよ。これをずーっと足していくと、10代さかのぼっている血のつながっているお父さん、お母さんは何人いると思えますか。1,024人いるんですよ」と。

**泊** そうなるんですか。遡っていくと不思議な気持ちになりますね。

**三吉** 10代ということは、仮に25年としますと250年ですね。250年というのはまさに江戸時代なんです。その江戸時代に我々と同じような人生を送っている人たちがいて、その人たちが精一杯生きて、その姿を我々が見る、というのでは何かという、時代劇なんです。時代劇を我々が見て、それは先程の時代考証ではないですが、いろいろ違うところもあるかもしれないけれども、あのように皆生きていたんだな、ということを我々が知る手立てとしては時代劇なんです。

そういう中で、今の我々があるということをもっと私は若い人たちにわかってもらいたいと最近に思っています。ところが、残念なことに時代劇が減ってきているという現実があります。

**泊** 確かにそうなんです。私の父は明治の生まれ、祖父は慶応ですから三代前は江戸時代、時代劇の世界にいたわけ。もっと勉強しろと先祖から叱られそうです。

同じようにこれからの未来のことも大事ですね。アニメも先人達の労苦に感謝しながら更に世界に羽ばたかなければいけません。東映アニメーションの企業理念は、世界の子供たちに夢を贈ることにあります。子供たちは人生のゴールデンタイムを生きています。戦乱の中にも子供も、貧困の中にもいる子供たちも、その人生の中で一番良い時期を生きています。その子たちに良い面白いアニメを見せてあげたい。そう思いながら、中々そうはいかないんですけど、そう念じながらやってきました。

**三吉** 本日は長時間にわたりました、すばらしいお話をお聞かせいただきました。ありがとうございます。これからもますますお元気で、ご意見番として、後進の成長にお力添えをいただければと思います。

**泊** こんなに東映の映画にお詳しいとは考えもありませんでした。今日はこの能楽堂という空間で私の方こそいろいろ話を聞かせて頂きました。ありがとうございます。実は言えば私の御先祖は長崎の五島で代々代官を勤めていたのです。その末裔の私は時代劇の中に何かといえば悪代官を登場させて「そちもワルよのう」などと言わせて、小判の入った菓子折を受け取らせたりしてしましたから。(笑) 罰を受けるんじゃないかと思うんです。そろそろラストシーンを迎えますので。(笑) その時はどうかうまく引導を渡して下さい。(了)



都会の中にひっそりと佇む屋敷内の代々木能舞台を背に、泊懋氏(左)と三吉廣明上人(右)